

2023 年 1 月 1 日～2024 年 6 月 30 日の間に 当病院においての腹部 MRI 検査を受けられた方及びご家族の方へ

—「腹部 MRI 検査における撮像シーケンス間の違いが副腎静脈の描出能へ及ぼす影響に関する研究」へのご協力をお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学附属病院 中央放射線部 診療放射線技師 仲光 勇輝
研究分担者 川崎医科大学附属病院 中央放射線部 主任技師 守屋 和典
川崎医科大学放射線診断学 准教授 山本 亮
川崎医科大学放射線診断学 特任講師 福永 健志
川崎医科大学附属病院 中央放射線部 副主任技師 谷 忠司
川崎医科大学附属病院 中央放射線部 診療放射線技師 柴田 成
共同研究機関 川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 講師 舩田 隆則

1. 研究の概要

副腎静脈サンプリング術を施行する際に、術前の副腎静脈の同定は手技を円滑に行い、手術時間を短縮するために不可欠とされています。しかし、副腎静脈は解剖学的に小さく、周囲の血管や組織と近接しているため、同定が困難です。現在、副腎静脈を同定するための Gold standard は造影 CT 検査ですが、X 線を使用するため被ばくが伴う点が課題となっています。そこで、本研究では被ばくを伴わず、軟部組織のコントラストに優れる MRI を用いて、副腎静脈の描出能を評価することを目的としています。本研究では、当院の中央放射線部で実施され、保存されている腹部単純 MRI データを使用し、撮像シーケンスごとの副腎静脈の描出能を比較・解析いたします。具体的には、各シーケンスにおける副腎静脈の識別率、画質、および解析データへの影響を検討し、最も高精度に副腎静脈を同定できる MRI シーケンスを明らかにすることを目指します。本研究の結果は、術前評価の精度向上や被ばく低減に貢献する可能性があります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2023 年 1 月 1 日～2024 年 6 月 30 日の間に当院において腹部 MRI 検査を受けられた方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2027 年 3 月 31 日

3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院において腹部 MRI 検査を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに腹部 MRI のデータを選び、撮像データを集計します。そして、撮像データから副腎静脈の識別率やコントラスト比に関するデータをワークステーション上で算出・計測し、各画像でどの程度差異が認められるかを解析いたします。

4) 使用する情報の種類

情報：MRI 画像、年齢、性別、身長、体重、血管造影データ、腎機能、体脂肪率(BMI)、血圧、血清電解質、血清ホルモン値、喫煙歴 等

5) 情報の保存及び2次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学附属病院中央放射線部内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2026年3月1日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 中央放射線部

氏名：仲光 勇輝

電話：086-462-1111 内線 21534（平日：8時30分～17時00分）

E-mail：nakamitsu@hp.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。